京都大学総合博物館　平成26年度特別展図録

明月記と最新宇宙像

Meigetsuki and the latest images of our universe

京都大学総合博物館

ごあいさつ

京都では、宇宙への興味が千年以上にわたり受け継がれてきました。すでに、平安時代、日記「明月記」の中で藤原定家は天文現象をいくつも記録しています。その中には、西暦1006年、京都の南の空に突如現れたまばゆいばかりに明るい星の記述もあります。

京大の初代天文台長山本一清は、国際的視野で研究を推進するとともに、天文学の育成をめざしアマチュア天文学者とも広く交流しました。その一人、射場保昭は、明月記の記事を英文で世界に発信、今や天文学の最先端分野となった超新星研究の発展に大きな刺激を与えました。さらに、一清のペルー日食観測がきっかけで後年派遣されることになった石塚睦は、半世紀にわたりペルーの天文学の発展に寄与し、今日ますます密接となりつつある京大とペルーの交流の礎を築きました。また、一清は、天文学に興味をもつあらゆる人たちと協力しました。その一例が長島愛生園での天文観測の指導でした。

百年にわたる京大の天文学の活発な研究の土台には宇宙地球科学分野の優れたパイオニア達のつながりもありました。そして、今、京大では最新の技術を駆使して新たな3.8m望遠鏡を建設中で、その完成によって天文学にさらなる貢献が可能となります。

この展示では、京の天文学千年の歴史と、今も広がりつつある、星の研究を愛する人たちのつながりについて展示します。来館者の皆さん、とりわけ小・中・高校生の皆さんに京大の天文学の面白さを感じていただければ幸いです。

国宝である「明月記」の出展を快諾いただいた冷泉家時雨亭文庫をはじめ、この展示に協力していただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

本図録には、京都大学の宇宙地球科学を牽引し、2008年の「京の宇宙学」展、宇宙総合学研究ユニットの設立から、2014年の本展開催にいたるまで、力強く関係者を支援いただいた松本紘総長にお話をうかがい、冒頭に収録しています。

京都大学大学院理学研究科附属天文台長　柴田一成
京都大学総合博物館長　大野照文

目次

松本総長｜ロング・インタビュー …… 5

01｜明月記 …… 27

Column 01 …… 42

02｜射場保昭――明月記を世界へ …… 43

Column 02 …… 53

Column 03 …… 54

03｜山本一清――天文学を市民へ …… 55

Column 04 …… 63

Column 05 …… 66

04｜京大宇宙地球科学のパイオニアたち …… 67

Column 06 …… 77

05｜石塚 睦――ペルー天文学の父 …… 79

Column 07 …… 86

06｜最新宇宙像 …… 87

Column 08 …… 97

【展示品一覧】 …… 98

参考文献 …… 126